

公私立大学実験動物施設協議会 2019 年度（令和元年）総会議事録

【総 会】13：00～14：40

日 時：令和元年6月14日（金）

場 所：タカクラホテル福岡 富士の間

会員（施設）数：190 施設

出席会員（施設）数：122 施設

委任状提出会員（施設）数：41 施設

代議員（代理出席を含む）数：170 名

来 賓：7 名

オブザーバー参加：0 名

出席者合計数（代議員+オブザーバー）：177 名

1. 開会の辞：

下田耕治副会長（慶應大）から出席会員（施設）数と委任状数の総計が過半数を上回るため本総会が成立することが報告され、公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という）の2019年度（令和元年）総会の開会が宣言された。

2. 会長挨拶：

公私動協は、発足当時、医学系大学を中心に38会員の小規模の組織であったが、現在では医歯薬系大学以外の大学が多数加入し190会員と大規模の組織になったこと、また、新たに加入された大学は小規模の動物実験施設である場合が多く、かつ、実験動物管理の専門家ではない教員が主に兼任で動物実験全般の運営を行っていることが多いため、公私動協の活動として、総会時のシンポジウム、実験動物管理者の講習会及び技術研修会などを開催することにより、動物実験に関する情報の提供並びに動物実験の適正化を推進する取り組みを実施していることが報告され、会員の積極的な参加を要請された。

3. 来賓紹介：

喜多会長から、以下の6名の来賓が紹介された。

| | |
|-------------------------------|---------|
| 文部科学省研究振興局学術機関課研究設備係長(併)研究支援係 | 大久保雅史 様 |
| 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課ゲノム研究企画調整官 | 宅間 裕子 様 |
| 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係長 | 寺元 敏紀 様 |

国立大学法人動物実験施設協議会会長

小野 悦郎 様

厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会会長

今井 俊夫 様

厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会副会長

岡村 匡史 様

4. 来賓挨拶

以下の方々からご挨拶をいただいた。

大久保雅史 様

動物実験は社会の理解の下に行う必要があるため、引続き、大学としての信頼と地域の安心と安全に配慮して適切に行っていただきたい。また、当日配付の「資料3. 学術研究を取り巻く動向について」を基に、高等教育に関する将来構想並びに若手研究者育成のための環境整備を加えた、資料の概略を説明された。昨今の大学においては、厳しい財政事情や大学改革等という現状があるが、各大学の特色や強みを活かしつつ、全国的規模で連携して共同利用・共同研究体制の強化を図るようと呼びかけられ、ご挨拶とした。

宅間 裕子 様

今国会において、動物の愛護及び管理に関する法律改正（案）が衆参両院で可決されたことを受け、41 条に関しては、3R のすべてが義務とはならず、replacement と reduction は現行の通り配慮事項のままとされた。しかし、3R のすべては厳しい眼で観られることとなったとの見解を述べられた。また、平成 30 年度における文科省の調査では全国で 410 機関が動物実験を実施している。動物実験は、外部検証・情報公開と機関管理を柱として、基本指針を遵守して行うことが大切である。必要な科学研究を実施できる環境の醸成のためには、外部検証に積極的に取り組むことが大変重要であり、また、先進的取り組みなどの最新情報を収集することが必要であると挨拶された。

小野 悦郎 様

国動協の会員数は 73 機関であり、昨年は、新規会員の入会があったこと、地震の発生が多発したことから緊急時対応の手引きを作成したこと、国動協のホームページに機関内規程の雛形が掲載されていること、公私動協や他団体と共に法改正に対する要望書を提出したこと等の活動状況が報告された。また、国動協の収支バランスの数年後を今から考える必要があることに言及された。今後は、現行の機関管理をさらに発展させる意向であると挨拶された。

今井 敏夫 様

公私動協や国動協と比較して、厚労働協は経歴の浅い組織であり、公私動協総会等に参加して情報を取得していると述べられた。また、加盟機関（23 機関）の詳細な構成の内訳を示され、昨年度は、厚労働協として実験動物管理者の教育訓練並びに書面のみの外部検証を実施した。さらに、2020 年 5 月 23 日～25 日に、厚労働協加盟施設の 1 つである国立循環器病研究センターの塩谷恭子先生を大会長として第 67 回実験動物学会総会（テーマ：健康長寿を支える実験動物）が開催されることを広報し、今後も情報を共有して公私動協、国動協ならびに厚労働協がまとまることを提唱され、ご挨拶とした。

5. 議長選出：

下田耕治副会長（慶應大）のもとで議長選出の手続きが行われ、小松 生明代議員（第一薬科大学）が議長に選出された。

6. 議 事：

(1) 報告及び承認

① 平成 30 年度会務報告及び活動報告

喜多正和会長（京都府立医大）から、平成 30 年度定期総会、第 24 回シンポジウムおよびサテライトミーティングの開催、会誌（公私動協年報 No. 26）の発行、平成 30 年度役員会の開催、ICLAS モニタリングセンター運営検討委員会への出席、平成 30 年度国動協総会への出席、動物実験関連団体円卓会議への出席、実験動物飼養保管等基準解説書研究会への出席、獣医系教員団体役員と実験動物施設協議会役員の意見交換会への出席、全国医学部長病院長会議への出席、京都大学第 5 回ライフサイエンス法令セミナーでの講演、外部検証説明会での講演が、総会資料に基づいて報告された。さらに、全ての委員会における平成 30 年度活動報告がなされた。これらについて議長が採決を諮り、賛成多数で承認された。

② 2019 年度（令和元年）委員会委員等の追加について

喜多正和会長より、丸山先生（事務局）、大石先生（遺伝子組換え動物実験委員会）並びに川村先生（組織・制度検討委員会）を 2019 年度の役員あるいは委員として追加委嘱したことが報告された。

③ 平成 30 年度会計報告

下田耕治副会長・事務局長から、「平成 30 年度会計収支計算書」及び「財産目録」の内容を説明され、会計報告がなされた。

⑤ 平成 30 年度監査報告

久保 薫監事(奈良県立医大)から、予算の執行が適正かつ妥当であった旨の会計監査報告がなされた。

議長が採決を諮り、平成 30 年度会計報告並びに平成 29 年度監査報告は賛成多数で承認された。

⑥ その他

無し。

(2) 審議事項

① 2019 年度(令和元年)事業及び活動計画(案)

喜多正和会長から、「2019 年度(令和元年)総会資料」を資料として本総会を開催していること、会誌「公私立大学実験動物施設協議会年報 No. 27」を発行予定であること及び2回の役員会と ML 役員会の開催を予定していること、さらに、会員施設の外部検証の実施を推進すること、法令遵守の周知を図ること及び国動協並びに厚労働協等との連携を強化することを運営方針とすることが提案された。

引き続き、総会資料に基づいて、全ての委員会の委員長から活動計画(案)が提案された。

学術情報・広報委員会委員長：田中聖一(福岡大)からは、メーリングリスト及びホームページのメンテナンスを継続することが提案された。また、公私動協会員専用ホームページ(HP)にアクセスするためのパスワードを本日6月14日15:00から変更予定であること及び新しいパスワードが報告された。

教育・研修委員会委員長：寺田 節(獨協医大)からは、「実験動物管理者の教育訓練」を6月15日(土)午前中に福岡大学医学部メディカルホールで実施すること、また、マウス・ラットの生殖技術の実技研修会を8月8日(木)～9日(金)に日本獣医生命科学大を会場として実施することを提案した。

バイオセーフティ委員会委員長：國田 智(自治医大)からは、バイオセーフティに関連する安全管理や諸法令対応等の情報並びに実験動物の健康管理・授受にあたって有益な新規感染症や微生物モニタリング等に関する情報を会員に提供することが提案された。

遺伝子組換え動物実験委員会委員長：鈴木 真(沖縄科学技術大学院大)からは、遺伝子組換え動物に関する情報、海外からの研究用生物試料の受け入れに関する新しい国内ルールに関する情報及び「ゲノム編集」関わる国際的な動向に関する情報を収集し、会員に提供すること並びに遺伝子組換え動物を実験動物施設に導入し、飼育(繁殖)するための教材を提供することが提案された。

組織・制度検討委員会委員長：若井 淳(岩手医大)からは、会則および諸規程

等の一部改正や整備を行うことが提案された。

評価・検証制度検討委員会委員長：下田耕治（慶應大）からは、本年度も日本実験動物学会が行う外部検証事業に協力することが提案された。外部検証の受審申込締切日は7月末ではあるが、早めに手続きするようにとの呼びかけがあった。

記録・編集委員会委員長：久保 薫（奈良県医大）からは、2019 年度（令和元年）総会資料の作成、本総会の議事録の作成、年報 27 号の編集と発行、並びに2020 年度（令和2年）総会資料の作成を実施することが提案された。なお、年報作成では例年通り CD も作成するが、昨年度と同様に、CD のジャケット及びラベルは総会が開催された都道府県にちなんだものを採用することが報告された。

調査委員会委員長：岡田利也（大阪府大）からは、教育・研修委員会と協力して文部科学省基本指針への対応をフォローアップすること並びに「実験動物施設の現状調査」の項目を点検し、平成30年度の調査を行うことが提案された。

動物実験適正化委員会委員長：佐加良英治（兵庫医大）からは、会員（施設）及び新規入会希望施設における動物実験の適正化を支援することの他、動物実験適正化に関する業務を役員会や会員の依頼に応じ実施すること、教育訓練資料の雛形作成を行うことが提案された。

選挙管理委員会委員長：秋元敏夫（日本医大）からは、今年度に役員選挙を実施するので、その予定が提案された。

質問者 1名：立命館大学（動物飼養保管施設）西澤 幹雄 先生

動物実験適正化委員会の活動計画について、「立命館大学における新施設設計についても助言していただけるか？」との質問がなされ、佐加良委員長から「何でもやります」と、快諾された。

その後、議長が採決を諮り、活動計画(案)は賛成多数で承認され、活動計画として成立した。

② 2019 年度（令和元年）予算（案）

下田耕治副会長・事務局長から、「2019 年度（令和元年）収支予算案」が提示され、会員からの質疑は無く、議長が採決を諮り、収支予算案は賛成多数で承認された。

③ その他

無し

7. 表彰：

技術研修会の会場を提供し貢献していただいた、日本獣医生命科学大学に対して感謝状が贈呈された。

8. その他：

○2020 年度（令和 2 年）定期総会の開催について

2020 年度（令和 2 年）定期総会は以下の通り開催予定である旨が、世話人となる久保 薫代議員（奈良県医大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。

日 時：令和 2 年 6 月 12 日（金曜日） 13：00～17：00（予定）

会 場：奈良春日野国際フォーラム 薨

〒630-8212 奈良市春日野町 101

○2021 年度（令和 3 年）定期総会の開催について

2021 年度（令和 3 年）定期総会は以下の通り開催予定である旨が、世話人となる荒田 悟代議員（昭和大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。

日 時：令和 3 年 6 月 18 日（金曜日） 13：00～17：00（予定）

会 場：昭和大学上條記念館

〒142-0064 東京都品川区旗の台一丁目 1-5-8

9. 閉会の辞

井上隆司（福岡大 アニマルセンター長）から閉会が宣言され、公私動協 2019 年度（令和元年）定期総会が閉会した。

資 料：

1. 公私立大学実験動物施設協議会 2019 年度（令和元年）定期総会資料
2. 動物実験等の適正な実施について 令和元年 6 月 14 日（金）公私立大学実験動物施設協議会総会 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課
3. 学術研究を取り巻く動向について 令和元年 6 月 14 日（金）文部科学省研究振興局学術機関課

【第 25 回シンポジウム】 14：40～17：00

座長（下田耕治（慶応大）・久保 薫（奈良県医大）の進行のもとで、「機関内規程と教育訓練」について講演と質疑が行われた。要旨は総会資料に掲載してある。

1. 機関内規程策定の経緯 喜多 正和（京都府立医大）
2. 機関内規程の基本事項と雛形 佐加良英治（兵庫医大）
3. 教育訓練の内容 國田 智（自治医大）

【2019 年度（令和元年）サテライトミーティング】

総会及びシンポジウムの終了後、17:00～19:00に、タカクラホテル福岡(宝珠の間)において2019年度(令和元年)サテライトミーティングが、本総会の世話人である田中聖一役員の司会のもとに行われた。田中聖一役員(学術情報・広報委員会委員長)からは、リニューアルされた公私動協ホームページの概要、会員サイトのIDおよびPWが本日15:00より改訂されたことが紹介された。出席者は、代議員等の106名であった。

以 上